

研究分野	小児科学, 小児白血病, 小児固形がん, 合併症の克服
キーワード	小児がん, 急性リンパ性白血病, 神経芽腫, QOL, グループ研究, がん教育, がんワクチン

## 小児がんを克服するための研究

医学部 医学科 大分こども急性救急疾患学部門医療・研究事業（小児科）

<https://www.oita-ped.jp/about/member/suenobu-s.html>

<https://researchmap.jp/read0072809>

教授 **末延聡一** (SUENOBU Souichi MD, PhD)



### 研究概要

#### 1. No Child should die of cancer : 小児がんの治療成績改善に関する研究

希少がんの治療成績の向上

例 1) 小児急性リンパ性白血病

50年間で、治る見込みが10%から90%近くまで向上した、その理由は「グループ研究」

例 2) 神経芽腫

日本がリードしている分野、でも高リスク神経芽腫では治療成績は不十分

#### 2. 小児がん経験者のQOL (Quality of life) 向上に関する研究

白血病が治る時代になった。しかし、治ったこどもたちはちゃんとオトナになっているか？

晩期合併症の回避とQOLの担保が極めて重要で、現在注目しているのは治療後低身長回避。

小児白血病研究会 (JACLS: Japan Association of Childhood Leukemia/Lymphoma Study)

#### 3. 世界中の小児がんに関心を向ける

アジア全体での協力体制が望まれる。Webの会議、共同研究を行っている。

#### 4. がんを予防する

がん教育、がんワクチン、正しい知識と研究とが必要で、企業や若い研究者たちの協力が必須。

### アピールポイント (技術・特許・ノウハウ等)

JACLS、およびJCCG (小児がん研究グループ) において、晩期合併症のコホート研究を行っている。

ALL (急性リンパ性白血病) 委員会

神経芽腫委員会

長期フォローアップ委員会

小児血液・がん学会における活動

### 応用可能な分野

SDG3. すべての人に健康と福祉を→No Child should die of cancer

SDG4. 質の高い教育をみんなに→小児がん経験者や一般の方々に対するがん教育

SDG10. 人や国の不平等をなくそう→No Child should die of cancer/Cure is not enough

SDG17. パートナーシップで目標を達成しよう→本邦、またアジア全体での協力体制